

キャリーダンプが登場 =大谷川=

大谷川では、掘削作業が本格化(写真左)。難所である最上流端の床掘作業が続く。難所の理由は、現場が大変急峻であること。斜面の上部から下部を眺めると、目が眩む程の急勾配だ。掘削は重機により行うが、重機に乗っているからといって安全であるということはない。重機のオペレーターは自分の腕と設計成果を信じ、この難所に挑む。最上流端の掘削では、既に掘削底面が見えてきた所もある(写真中)。

切り崩した土砂の運搬は、通常ダンプトラックの出番であるが、この現場ではキャリーダンプがその役割を担っている。ダンプトラックでは登れない急勾配も、キャリーダンプは登ることが出来る。急峻で狭い工事用道路内を、キャリーダンプが汗水垂らして移動している。



橋梁に切替

=ドン谷=

ドン谷では橋梁の施工を終え、切り直し道路から橋梁へ通過交通を切替作業中。

梅雨の合間における青空の下、作業員は、切替準備に大粒の汗を流す。



えん堤打設が続く

=宇津志谷=

宇津志谷では、主えん堤のコンクリート打設が続いている。打設リフトが高くなり、クレーンのオペレーターは直接打設面を見ることが出来なくなった。このため、無線により、意思疎通を図っている。



「えんぴつ？」が搬入される =エノマ谷=

エノマ谷では、大きな「えんぴつ」が搬入された(写真左)。皆さんはこれが何かお分かりでしょうか？実はこれ、コンクリート杭。打ち込む時、杭の先端が折れないよう鉄で保護されている。どう見ても「えんぴつ」ですよね。作業員はこの「えんぴつ」を使用し、管理用階段を描く。

写真右は分配水槽の施工の様子。通常、盛土の上の構造物は望ましくないため、あらかじめ先行盛土を行い、その上に施工している。沈下による影響を極力少なくするため、作業員は知恵を絞る。



熱中症にご注意！

最近、ニュースを賑わしている「熱中症」。平成22年7月～9月の救急搬送状況を見ると、岐阜県は7月に全国第6位、9月には全国第5位を記録している。炎天下で作業を行う建設事業は、熱中症にも十分な配慮が必要。「えんぴつ」を用いて作業をしているエノマ谷では、ブルーシートによる熱中症対策を実施(写真左)。



色付くあじさいがその鮮やかさを失う頃、越美山系にも夏が来る。

皆様も熱中症にはご注意ください！

